

16. 心機一拂【しんきいつぶつ】(外)



(刊) 大本一冊(上巻のみ)
寛政十二年(1800) 七月序
蕙齋【けいさい】先生筆
[尾張] 永楽堂【えいらくどう】[板]

「寛政庚申秋七月既望 荏土島範題于水西樓」と、島範が寛政十二年に記した序文(一丁半)を巻頭に、上巻の目録が続ぎ、**蕙齋**の画が画面に繰り広げられる。『国書総目録』には「掃」の字で「心機一掃 三巻三冊、北尾**蕙齋**画、文化十一年序、明治版あり」とし、漆山又四郎氏も「心機一掃 大本三冊 文化十一年刊 蜀山の序文があって五八丁からの図がある」(『近世の絵入本』)と、記していることから、寛政期に初版、文化十一年に序を蜀山人(大田南**畝**)に変えて再版したか。なお、狩野博幸氏によると蜀山人序を持つ同内容の改題本『**蕙齋**麁画』(刊年未詳)が存在する(『MUSEUM』338号)。この本(上巻一冊のみ)の画は、「鷹、枯木に木兔【みみずく】、柳に燕、雲龍、草子洗、水仙、四睡【しすい】、竹に雀、福祿寿、人麁、桔梗、蜀黍【とうもろこし】に鼠、梅に鶯、烏【からす】、鷺【さぎ】、梅に福寿草、大黒、枇杷、兔【うさぎ】、鐘馗、罌粟【けし】、山水、鶏、蓮に翡翠【かわせみ】、王羲之、達磨」の計二六図。葉筆のようなやや太く先の粗い筆を主線にした略筆で、和漢の人物や動植物が描かれる。